

顎機能治療学

責任者名：高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)

西尾 健介(歯科補綴学 I 助教)

篠崎 貴弘(口腔診断学 専任講師)

本田 和也(歯科放射線学 教授)

池田 貴之(歯科補綴学 I 専任講師)

白川 哲夫(小児歯科学 教授)

植田 耕一郎(摂食機能療法学 教授)

阿部 仁子(摂食機能療法学 准教授)

中山 潤利(摂食機能療法学 准教授)

酒井 真悠(摂食機能療法学 助教)

◆一般目標 (GIO)

顎関節症や摂食機能障害といった顎機能障害を有する患者に対応するため、各障害に関する基本的知識を修得するとともに、身体・心理社会的側面を考慮した診察、検査、診断および治療方法について理解する。

◆到達目標 (SBOs)

【顎関節症：奇数回】

- ・顎関節症の概念と疫学的特徴について説明できる。
- ・顎関節症の原因と発症メカニズムについて説明できる。
- ・顎関節症の診察、検査、診断および治療方法について説明できる。
- ・小児の顎関節症について説明できる。

【摂食機能療法学：偶数回】

- ・摂食機能障害者と高齢者の社会的背景および歯科的問題を説明できる。
- ・摂食機能障害の基礎疾患について説明できる。
- ・摂食機能障害の検査、診断および対応について説明できる。
- ・フレイルと口腔機能低下症を説明できる。
- ・口腔機能の発達を説明できる。
- ・口腔機能発達不全症を説明できる。
- ・ADL、栄養、認知機能に関わる評価方法を説明できる。
- ・要介護高齢者、有病高齢者に対する口腔ケアについて説明できる。
- ・要介護高齢者、有病高齢者に対する歯科治療時におけるリスク管理を説明できる。

◆評価方法

【顎関節症の評価】

定期試験 (50%) と平常試験 (50%) にて評価する。平常試験後に解説を行いフィードバックする。

【摂食機能療法学の評価】

定期試験（50%）と平常試験（50%）にて評価する。また、欠席するごとに減点する。平常試験後に解説を行いフィードバックする。

【総合評価】

顎関節症の評価を 50%、摂食機能障害学の評価を 50%として成績評価を行う。

◆オフィス・アワー

| 担当教員 | 対応時間・場所など | メールアドレス・連絡先 | 備考 |
|--------|--------------------------------|----------------------------------|----|
| 高津 匡樹 | 月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座 | takatu.masaki@nihon-u.ac.jp | |
| 西尾 健介 | 月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座 | nishio.kennsuke@nihon-u.ac.jp | |
| 篠崎 貴弘 | 月曜日 17:00~18:00 口腔診断学講座 | shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp | |
| 本田 和也 | 月曜日 17:00~18:00 歯科放射線学講座 | honda.kazuya@nihon-u.ac.jp | |
| 池田 貴之 | 月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座 | ikedata.kayuki@nihon-u.ac.jp | |
| 白川 哲夫 | 月曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座 | shirakawa.tetsuo@nihon-u.ac.jp | |
| 植田 耕一郎 | 金曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座 | ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp | |
| 阿部 仁子 | 金曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座 | abe.kimiko@nihon-u.ac.jp | |
| 中山 潤利 | 金曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座 | nakayama.enri@nihon-u.ac.jp | |

◆授業の方法

【顎関節症】

5 時限（奇数回）に、参考図書と講義資料に基づいて遠隔講義を行う（11/26 日のみ 6 時限）。第 29 回は 12 月 4 日（土）に対面で平常試験を行う。

【摂食機能療法学】

6 時限（偶数回）に、教科書、参考図書、講義資料に基づいて遠隔講義を行う（11/26 日のみ 5 時限）。遠隔講義終了後に理解度の確認のための小試験を行う。第 30 回は 12 月 4 日（土）に対面で平常試験を行う。

【実務経験】 高津匡樹ほか

担当教員はすべて日本大学歯学部在籍し、顎関節症または摂食機能障害の歯科治療に関わる研究と臨床に従事している。それらの経験に基づいた講義を実施することで、より一層の理解を深めることが出来ると考える。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

| 種別 | 図書名 | 著者名 | 出版社名 | 発行年 |
|-------------|---|----------------------------------|----------------|------|
| 講義資料 | | | | |
| 顎関節症・参考書 | 新編 顎関節症(改訂版) | 一般社団法人日本顎関節学会編 | 永末書店 | 2018 |
| 顎関節症・参考書 | 顎関節症診療ハンドブック改訂版 | 本田和也ほか | メディア株式会社 | 2018 |
| 顎関節症・参考書 | TMD YEARBOOK 2019 / 2020 顎関節症の三大症状, その検査・診断・治療をやさしく教えます | 古谷野潔ほか | クインテッセンス出版株式会社 | 2019 |
| 摂食機能療法学・教科書 | 新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 | 向井美恵, 山田好秋, 井上誠, 弘中祥司 | 医歯薬出版株式会社 | 2016 |
| 摂食機能療法学・教科書 | よくわかる高齢者歯科学 | 佐藤裕二, 植田耕一郎, 菊谷武 | 永末書店 | 2018 |
| 摂食機能療法学・参考書 | 老年歯科医学 | 森戸光彦, 山根源之, 櫻井薫, 羽村章, 下山和弘, 柿木保明 | 医歯薬出版株式会社 | 2015 |

◆DP・CP

DP4

コンピテンス:問題発見・解決力

コンピテンシー:自ら問題を発見し,その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し,臨場的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

学習項目に関して事前に教科書や講義資料を読んで予習をして臨むこと。また,講義後は,講義資料やノートをま

とめて復習すること。なお、講義資料は事前にカレンダー上に掲示するので、予習・復習の参考とすること。

◆準備学習時間

予習と復習をそれぞれ授業時間（50分）相当を充てて行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

小児の歯科診療の基礎（3年後期）

歯科放射線学各論（4年前期）

顎機能分析学，顎機能分析演習（4年後期）

摂食機能療法学・高齢者歯科学演習（6年前期）

◆予定表

| 回 | クラス | 月日 | 時間 | 学習項目 | 学修到達目標 | 担当 | コアカリキュラム |
|---|-----|------|----|--|--|--------|--|
| 1 | | 8.27 | 5 | 【遠隔】 1. 顎関節症の概念と疫学的特徴 | ・顎関節症の主徴候と症型分類について説明できる。 ・有病率とその年齢分布および性差について説明できる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 2 | | 8.27 | 6 | 【遠隔】 2. リハビリテーション医学・高齢者歯科学概論講義 1)リハビリテーション医学の理念 | ・リハビリテーション医学における障害の構造について説明できる。 ・リハビリテーション医学の理念を正しく解釈できる。 | 植田 耕一郎 | B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 E-5-1) 高齢者の歯科治療 |
| 3 | | 9.3 | 5 | 【遠隔】 3. 顎関節症の原因と発症メカニズム | ・顎関節症の寄与因子を行動因子，身体的因子，心理社会的因子に分類できる。 ・顎関節症は複数の寄与因子が相互関与する多因子性疾患であることを説明できる。 ・種々の因子が背景因子，誘発因子，永続化因子として相互作用することで発症，進行することを説明できる。 | 西尾 健介 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 4 | | 9.3 | 6 | 【遠隔】 4. 在宅療養・在宅支援 1)訪問歯科診療の実際 2)訪問歯科診療で使用する器材 | ・要介護高齢者，有病高齢者の在宅療養・支援の実際を説明できる。 ・訪問歯科診療における多職種協働の中での歯科医師のあり方を説明できる。 | 植田 耕一郎 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 |

| | | | | | | | |
|---|--|------|---|---|--|-------|-----------------|
| | | | | 3)訪問歯科診療における多職種協働 4)訪問歯科診療における保健指導 | | | |
| 5 | | 9.10 | 5 | 【遠隔】 5. 顎関節症の診察と検査① 1)医療面接 2)口腔外検査 3)口腔内検査 | ・顎関節症患者の医療面接において、病歴や生活習慣聴取の重要性について説明できる。 ・顎関節症における口腔外検査を列挙することができる。 ・顎関節症において硬組織、軟組織、咬合などの口腔内検査が重要であることを説明できる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 6 | | 9.10 | 6 | 【遠隔】 6. 高齢者の全身状態の評価 1)ADL・IADL 2)BI 3)MMSE 4)FAST 5)SF-36 | ・生活の質、日常生活動作、認知、栄養等の高齢者に関わる全身状態の評価方法について説明できる。 | 中山 洵利 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 |
| 7 | | 9.11 | 5 | 【遠隔】 7. 顎関節症の診察と検査② 4)筋の触診と筋痛 5)筋痛と関連する疼痛の鑑別 | ・顎および頭頸部筋の触診による圧痛検査について説明できる。 ・筋痛の種類と発現過程を理解し、筋痛に関連して生じる障害について説明できる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 8 | | 9.11 | 6 | 【遠隔】 8. 障害者(有病高齢者)の歯科治療① 1)基本的対応 2)歯科治療における留意点 | ・障害者(有病高齢者・要介護高齢者)の特徴を述べるができる。 ・障害者(有病高齢者・要介護高齢者)への対応を説明できる。 ・歯科治療時の留意点・リスク管理を列記できる。 | 阿部 仁子 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 |
| 9 | | 9.17 | 5 | 【遠隔】 9. 顎関節症の診察と検査③ 6)顎関節部の触診と疼痛 7)関節雑音と開口 | ・顎関節部を触診することで圧痛、関節雑音、下顎頭移動量を検査することを説明できる。 ・顎関節に疼痛が発現するメカニズムを説明できる。 ・クリッキングとクレピタスに分類 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |

| | | | | | | | |
|----|--|------|---|--|---|-------|--------------------------------------|
| | | | | 障害 | される関節雑音の発生機序について説明できる。 | | |
| 10 | | 9.17 | 6 | 【遠隔】 10. 高齢者の口腔機能の低下が及ぼす全身への影響 11. 周術期口腔機能管理 1) 誤嚥性肺炎 2) 人工呼吸器関連肺炎 12. フレイル, オーラルフレイル 13. 口腔機能低下症 14. サルコペニア | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能低下症について説明できる。 ・フレイル, オーラルフレイルについて説明できる。 ・サルコペニアについて説明できる。 ・廃用症候群について説明できる。 ・高齢者の口腔機能低下と全身へ及ぼす影響についての関連づけられる。 ・周術期口腔機能管理について説明できる。 | 中山 潤利 | E-5-1) 高齢者の歯科治療機能障害 |
| 11 | | 9.24 | 5 | 【遠隔】 15. 顎関節症の診察と検査④ 8) 精神心理学的検査 | <ul style="list-style-type: none"> ・気分障害, 不安障害, 身体表現性障害など, 顎関節症に関連する精神心理学的疾患を説明できる。 ・精神心理学的障害と顎関節症との関係および鑑別を説明できる。 | 篠崎 貴弘 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 12 | | 9.24 | 6 | 【遠隔】 16. 摂食嚥下の生理 1) 摂食に関わる大脳皮質 2) 咀嚼, 嚥下のメカニズム 3) 誤嚥の発症機転 | <ul style="list-style-type: none"> ・先行期(認知期)における摂食行為の多様性について説明できる。 ・咀嚼, 嚥下が起る生理学的なメカニズムを説明できる。 ・咀嚼, 嚥下器官の神経学的正常と異常, 加齢を分類できる。 | 中山 潤利 | E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 |
| 13 | | 10.1 | 5 | 【遠隔】 17. 顎関節症の診察と検査⑤ 9) 画像検査 | <ul style="list-style-type: none"> ・パノラマエックス線検査(パノラマ4分割を含む), CT検査, MRI検査など, 顎関節症の診断に必要な画像検査を説明できる。 | 本田 和也 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 E-1-2) 画像検査を用いた診断 |
| 14 | | 10.1 | 6 | 【遠隔】 18. 発達期の摂食嚥下機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の摂食嚥下機能の発達を説明できる。 | 阿部 仁子 | E-5-2)-(6)発達期の摂食嚥下障害 |

| | | | | | | | |
|----|--|-------|---|---|--|----------------|---------------------------------------|
| | | | | 1)総論 | | | |
| 15 | | 10.15 | 5 | 【遠隔】 19. 顎関節症の診断① 1)病態診断 | <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節症を咀嚼筋障害, 関節円板障害, 関節包・靭帯障害, 変形性関節症などに分類し, その診断方法を身につけることができる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 16 | | 10.15 | 6 | 【遠隔】 20. 発達期の摂食嚥下機能 2)各論 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達期の摂食嚥下障害について説明できる。 ・対応における基本的考え方を述べるができる。 ・口腔機能発達不全症について説明できる。 | 阿部 仁子 | E-5-2) 障害者の歯科治療 E-5-2)-⑥発達期の摂食嚥下障害 |
| 17 | | 10.22 | 5 | 【遠隔】 21. 顎関節症の診断② 2)鑑別診断 | <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節の発育異常, 顎関節の外傷, 顎関節の炎症など, 顎関節症と鑑別が必要な疾患を説明できる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 18 | | 10.22 | 6 | 【遠隔】 22. 摂食嚥下リハビリテーションの概念と4つのアプローチ 1)治療的アプローチ 2)代償的アプローチ 3)環境改善的アプローチ 4)心理的アプローチ 23. 治療的アプローチ 1) 間接訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下リハビリテーションの概念を述べるができる。 ・摂食嚥下リハビリテーションの4つのアプローチについて述べるができる。 ・嚥下間接訓練について説明できる。 | 阿部 仁子 酒井 真悠 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 |
| 19 | | 10.29 | 5 | 【遠隔】 24. 顎関節症の治療概念 | <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節症に対する治療法を説明することができる。 ・病態診断, 原因および臨床症状をふまえ, 自然治癒への期待や治療法のリスクを考慮して治療法を選択することを身につけることができる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |

| | | | | | | | |
|----|--|-------|---|--|--|-------|------------------------|
| 20 | | 10.29 | 6 | <p>【遠隔】</p> <p>25. 治療的アプローチと代償的アプローチ</p> <p>1) 直接訓練</p> <p>2) 舌接触補助床 (PAP)</p> <p>3) 軟口蓋挙上装置 (PLP)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・治療的アプローチである直接訓練の考え方を述べることができる。 ・代償的アプローチである PAP, PLP の目的と適応を説明できる。 | 阿部 仁子 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 |
| 21 | | 11.5 | 5 | <p>【遠隔】</p> <p>26. 顎関節症の治療①</p> <p>1) ホームケア</p> <p>2) 薬物療法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善, 不良習癖の解消, ストレスの軽減などのホームケアの重要性とその方策を説明できる。 ・家庭および病院で行う理学療法を説明することができる。 ・顎関節症の治療に用いられる薬物とその効果について説明できる。 | 高津 匡樹 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 22 | | 11.5 | 6 | <p>【遠隔】</p> <p>27. 摂食嚥下障害の診断</p> <p>1) スクリーニング検査</p> <p>2) 呼吸, 栄養アセスメント</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害のスクリーニング検査の特徴を説明できる。 ・呼吸および栄養状態のアセスメント方法について説明できる。 | 中山 洵利 | E-5-1) 高齢者の歯科治療領域の機能障害 |
| 23 | | 11.12 | 5 | <p>【遠隔】</p> <p>28. 顎関節症の治療②</p> <p>3) スプリント療法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・スプリントの種類とその適用症例を説明できる。 ・スタビライゼーションスプリントを用いたスプリント療法について説明することができる。 | 池田 貴之 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 24 | | 11.12 | 6 | <p>【遠隔】</p> <p>29. 摂食嚥下障害の診断</p> <p>1) 嚥下造影検査</p> <p>2) 嚥下内視鏡検査</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害の装置診断法（嚥下造影検査, 嚥下内視鏡検査）の特徴を述べることできる。 | 中山 洵利 | E-5-1) 高齢者の歯科治療領域の機能障害 |
| 25 | | 11.19 | 5 | <p>【遠隔】</p> <p>30. 顎関節症の治療③</p> <p>4) 理学療法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節症における咬合治療と外科療法のリスクについて理解し, その適応や治療の進め方について説明できる。 | 池田 貴之 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |

| | | | | | | | |
|----|--|-------|---|--|--|--------|--|
| | | | | 5)咬合治療 6)外科療法 | | | |
| 26 | | 11.19 | 6 | 【遠隔】 3 1. 要介護高齢者・有病高齢者に対する口腔ケア 1) 口腔ケアの概念 2) 器質的口腔ケアと機能的口腔ケア 3) 口腔ケアに用いる器具・薬剤 4) 口腔ケアの手技 | ・要介護高齢者、有病高齢者への対応方法を説明できる。 ・口腔ケアの概念を述べることができる。 ・口腔ケアで用いる器具、薬剤を説明できる。 ・口腔ケアの手技と注意点を説明できる。 | 阿部 仁子 | E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 E-5-1) 高齢者の歯科治療 E-5-2) 障害者の歯科治療 |
| 27 | | 11.26 | 5 | 【遠隔】 3 2. 摂食機能療法学のまとめ | ・摂食機能療法学で学んだリハビリテーション医学、理念、摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。 ・要介護高齢者、有病高齢者、障害者を対象とした包括的な歯科的対応を説明できる。 ・多職種連携のなかでの歯科医師の役割を説明できる。 | 植田 耕一郎 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 E-5-2) 障害者の歯科治療 |
| 28 | | 11.26 | 6 | 【遠隔】 3 3. 小児期の顎関節症 | ・小児期に見られる顎関節疾患の特徴について説明できる。 ・小児期に見られる顎関節疾患の治療の考え方について説明できる。 | 白川 哲夫 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 29 | | 12.4 | 2 | 【対面】 3 4. 「平常試験1」および解説 ※土曜日 (12/4) | ・顎関節症の講義内容に対する理解度を確認し、習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。 | 顎関節症 | E-2-4)-(7)顎関節疾患 |
| 30 | | 12.4 | 3 | 【対面】 3 5. 「平常試験2」および解説 ※土曜日 (12/4) | ・摂食機能療法学の講義内容における理解度を確認し、習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。 | 阿部 仁子 | E-5-1) 高齢者の歯科治療 E-5-2) 障害者の歯科治療 |

担当グループ一覧表

| グループ名 | 教員コード | 教員名 |
|---------|-------|--------|
| 顎関節症 | 920 | 本田 和也 |
| | 1255 | 篠崎 貴弘 |
| | 1307 | 池田 貴之 |
| | 1537 | 白川 哲夫 |
| | 1568 | 高津 匡樹 |
| | 2839 | 西尾 健介 |
| 摂食機能療法学 | 1333 | 植田 耕一郎 |
| | 1872 | 阿部 仁子 |
| | 2157 | 中山 潤利 |
| | 3563 | 酒井 真悠 |

